

(社) 東洋音楽学会関西支部

支部だより 第26号 (1996-08-20)

定例研究会のご案内

..... ◎ (社) 東洋音楽学会関西支部 第180回定例研究会

とき：1996年9月28日(土) 14:00～17:00

ところ：大阪芸術大学 芸術情報センター AVホール(B1)

〒565 大阪府南河内郡河南町東山 tel 0721-93-3781

交通：近鉄「あべの橋」駅にて「河内長野」行き準急に乗車、「喜志」駅下車。

大阪芸術大学教職員用送迎バスにお乗りください(下記参照)。

「あべの橋」駅 12:34 発「喜志」駅 13:05 発の送迎バスに接続

「あべの橋」駅 13:14 発「喜志」駅 13:50 発の送迎バスに接続

なお送迎バスは 12:20 発、12:50 発もあります。

14:00～15:00【研究発表】

「20世紀における揚琴(ヤンチン)音楽の展望」

眞 林(キョウ・リン)

15:15～17:00【特別講習会】

「ラバノーテーション(ラバン式舞踊記譜法)入門 —その3—」 大谷紀美子

ドイツの舞踊家ルドルフ・ラバン(Rudolf von LABAN, 1879-1958)による身体運動記譜法を解剖学的に分析するためのラバン式記譜法 Kinetographie Laban「ラバノーテーション Labanotation」についての講習会をいたします。消しゴムつきの鉛筆と画板類をご持参ください。用紙(A4判)は提供します。

..... ◎ (社) 東洋音楽学会関西支部 第181回定例研究会

とき：1996年11月30日(土) 14:00～17:00

ところ：大阪大学文法経講義棟13教室

〒560 豊中市待兼山町1-5

交通：①阪急宝塚線「石橋」駅下車徒歩15分／②「蛍池」駅下車タクシー5分／

③モノレール「柴原」駅下車10分

14:00～15:30【特別講習会】

「ラバノーテーション(ラバン式舞踊記譜法)入門 —その4—」 大谷紀美子

15:45～17:00【特別講演・演奏】

「古琴(グーチン)の歴史と美学」(仮題) ゲスト：成公亮(南京芸術学院副教授)

成公亮氏は、広陵派の著名な琴家張子謙氏に師事した、広陵派の当代きっての傑出した伝承者であると同時に、中国各地を訪れて他の諸流派の精華をも併せ修めた、最も実績ある古琴演奏家の一人です。今回は、唐代に製作された貴重な琴を用いた演奏を交えつつ、琴楽の歴史・審美観、古琴の演奏技法・楽器性能などについてもお話しいただく予定です。

大谷紀美子氏による特別講習会「ラバノーテーション（ラバン式舞踊記譜法）入門」

5月と7月に開催された関西支部定例研究会は、いつもとちょっと違う趣があった。というのも、明らかにこの企画を目当てに参加した多くの若い学生非会員や、遠路はるばる駆けつけた会員たちによって、楽しくも充実した、熱気あふれる講習会となったからである。

これには、6年あまり日本を離れ、英国ベルファストのクイーンズ大学で博士号を取得して昨年帰国された大谷氏の関西支部活動へのひさびさのご登場ということと、いま静かなブームを呼んでいるラバノーテーションの手ほどきを、最適任者の講師から受けられる絶好のチャンス、という二重の意味があったと思う。受講生は予告どおり画板を携えての参加で、ピアノに収める風景もあった。

第1回目は、2時間の予定でこの講習のプログラムが組まれたが、講師、受講生ともども時間の経つのも忘れるほどの熱心さ。3時間を越える熱演に、企画者のひとりとして大谷氏に感謝する。教材は、Ann Hutchinson の *Labanotation: the system of analyzing and recording movement*. (London: Oxford Univ. Press, 1954) を用い、配付された第4・5章（ラバノーテーションの基礎とステップの変化）の内容に添って、実演入りの的確な解説がなされた。はるか昔、多少かじった経験がある筆者だが、さて、自分で書く段になるとどこか少しずつ間違えている。頭で理解しながら即記憶し、それを実習に移すところなどまさにゲーム感覚で、若い人たちの呑み込みのよさと柔軟さには舌をまいた。

第2回は、調査報告との抱き合わせプロで時間が少なく、また、今回はじめて参加した人もあって、前回の復習と次の第6・7章（足の位置とジャンプ）が多少急ぎ足で解説された。好評に応じてその3・4の連続企画をお引き受けくださったので、楽しみは9月（大阪芸術大学）、11月（大阪大学）まで続く。いよいよ複雑化する情報に果たしてついていけるかどうか。

第179回定例研究会報告

調査報告 「ベトナム雅楽の現状—その2」 金 英峰 (キム・ヨンボン) / 趙 維平 (チョウ・イヘイ)

今年の4月ベトナム雅楽（ニャーニャック）の現状を再調査するために、昨年を引き続き、2回目の現地調査に踏み切った。昨年とはほぼ同じメンバー構成でハノイとフエを中心に活動した。今回の主な目的はフエ遺跡保存センターに所属する長老たちを中心とするグループの演奏をふたたび映像記録し保存する作業であった。さらに、今までの研究成果をフエに持ち寄り、ベトナム雅楽に関する学術交流を雅楽コース新設記念シンポジウムとして具体化し、ディスカッションやインタビューなども行なった。今年4月にまだ仮の形ではあったが、フエ芸術大学に雅楽科が設置できたことは、これからベトナム宮廷雅楽の伝承保存と雅楽家の養成を約束する重要な意味を持つことと同時に、徳丸吉彦教授と山口修教授を中心とするベトナム雅楽研究会の努力の結果とも言える。

ベトナムのニャーニャックはもともと中国から輸入された儀式音楽の一つである。しかし、宮廷がなくなった後、社会変化に伴う脈絡変換によって、現在では伝統芸能の一つとして生き続けている。ニャーニャックは長老たちを中心とするグループにより演奏された。それは五音音階で、全部で10曲からなるが、1曲ずつ独立した形ではなく、連続的に演奏された。さらに、曲が進むにつれ段々と速くなる、いわゆる *tempo gradation* の形態をとっていたが、これは他のアジアの国でも見られる。また今回に使用された楽器としては *đàn nguyệt*, *đàn ty bà*, *đàn nhi*, *đàn gao*, *đàn ho*, *sáo lỗ*, *trống bản*, *sinh tiên*, *chen* などがあったが、これら以外の楽器もオプションに使うことができる。

関連企画のお知らせ

前号の「支部だより」で予告しました当学会協力のイベントにつき、現段階で公表されていることを記しておきます。近いうちに確定する詳細なご案内につきましては、会員諸氏それぞれにおいて主催団体にお問い合わせください。当学会会員の方々は優先的に受け付けていただくことになっていますので、その旨名乗ってください。

第4回ひょうごアジア太平洋芸術フォーラム

The Fourth Forum of Asian & Pacific Performing Arts in Hyogo

「若者が担うアジアの伝統音楽ーベトナムと日本」

とき：1996年11月2日（土）14:00～17:30

ところ：兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）大ホール

趣旨 伝統音楽が新しい時代の新しい環境におかれるとき、音楽の知識や技術が年長者の世代から若者へと伝えられるプロセスにも新たな工夫がこらされます。ベトナムのフエに伝わる雅楽（ニャーニャック）などのレパートリーは、いま歴史的文化遺産として変貌を遂げながら若い世代へと継承されつつあります。その音楽教育の現場を垣間見たり、若さあふれるみずみずしい演奏に触れて、日本のケースと比較しながら楽しみましょう。

内容（予定）

基調講演 グエン・シュアン・ホア（ベトナム・フエ州文化情報副局長）、富田健次（大阪外国語大学教授）

実演 ベトナム・フエ青少年雅楽団（フエ州立芸術中級学校）

生田神社、一絃須磨琴保存会、兵庫県立洲本高等学校邦楽部

パネルディスカッション

グエン・ディン・サン（フエ州立芸術中級学校長）、白石昌也（横浜市立大学教授）、ほか

お問い合わせは次の主催団体へ

（お申し込みは、はがき、または fax にて。住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のこと）

（財）兵庫現代芸術劇場フォーラム係 tel 078-333-1150 fax 078-333-1152

〒650 神戸市中央区海岸通6番地建隆ビルⅡ8階

◆ なお、フエ青少年雅楽団は上記以外の地でも、別の主催団体による類似の企画に加わる予定になっています。詳細は、それぞれの主催団体にお問い合わせください。

10月30日（水）午後 大阪音楽大学付属楽器博物館展示室 (tel 06-868-1509)

10月31日（木）夜 京都コンサートホール (tel 075-711-321)

11月4日（月）夜 兵庫県立西播磨文化会館 (tel 0791-75-3663)

関西支部からのお知らせ

◇ 今期の役員が企画する定例研究会は、本号記載の2回分で終了です。1月以降の分は次期役員の担当となります。研究発表等の公募は引き続きおこなわれますので、とりあえず11月ころまでは下記の関西支部事務局にご連絡ください。

◇ お詫び — 前号の「定例研究会のご案内」で誤植がありましたので、訂正します。

第177回 → 第178回 第178回 → 第179回

◇ 研究発表等の受付は常時おこなっています。ただし、申し込み多数の場合など、ご希望に添えないこともあります。あらかじめご了承ください。発表の種別（研究発表、調査報告、資料紹介、研究演奏等）、題目、希望使用機器、希望日、氏名、連絡先を明記の上、はがきまたはファクスにて関西支部宛てにお送りください。

◇ 関西支部事務局は、次期の支部長が指定するところに移転のはこびとなります。おそらく11月以降に「支部だより」等でお知らせすることになるでしょう。

◇ 住所・電話・ファクス・勤務先などの変更がおありの方は、なるべく早い時期に郵便・ファクス・電子メールなどで学会本部宛てにお知らせください。

〒162 東京都新宿区市谷左内町 3番地 正派邦楽会館内

(社) 東洋音楽学会

tel 03-3268-1237 fax 03-3268-1238 振替 東京 00160-6-55723

e-mail LDT01776@niftyserve.or.jp

発行 (社) 東洋音楽学会関西支部

[1996-11ころまで] 〒560 豊中市待兼山町 1-5 大阪大学文学部山口研究室気付
tel & fax 06-850-5124 (直)